

令和5年6月

令和5年島根県コンクリート診断士会総会・技術研修会

標記総会及び研修会について下記のとおり実施したので報告します。

1. 開催日時：令和5年6月17日（土）13：00～17：00
2. 場所：松江テルサ 大会議室
3. 参加人数：会員55名、講師2名
4. 総会・研修会について

【総会】

技術研修会に先立ち、令和5年度の総会が開催されました。

総会においては下記の議案が審議され、いずれも賛成多数で承認されました。

- 令和4年度事業報告
- 令和4年度決算報告及び会計監査報告
- 新役員の選出
会 長：松浦寛司 氏 （株）エイト日本技術開発
副 会 長：平田 守 氏 カナツ技建工業（株）
事務局長：余村 浩 氏 （株）ウエスコ
理 事：足立孝之 氏 足立工業（株）
大島清司 氏 今井産業（株）
小野大輔 氏 森島建設（株）
幸前 徹 氏 （株）シマダ技術コンサルタント
中村裕大 氏 島根県
監 事：西田修三 氏 N T E C
- 新役職の設立及び会則の改定
幹事職の設置による会則の改定及び井田豊幹事の選出について
- 令和5年度事業計画及び予算案

【研修】

(1) 14:15～15:15

演題「NET ZERO2023 実現に向けて」

會澤高圧コンクリート株式会社 酒井 亨 氏

(2) 15:30～17:00

演題「生コンクリートの技術的課題とこれからの展望」

福井県コンクリート診断士会 石川裕夏 氏

●講習状況

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたため、3年ぶりに通常の講習会を開催できました。また、講習会終了後には懇親会も実施しました。

●講演の概要

(1)「NET ZERO2023 実現に向けて」

會澤高圧コンクリート（株）の酒井様より、「NET ZERO2023 実現に向けて」と題して、北海道からWEBにより講演されました。

セメントの製造にあたっては1tあたりCO₂が0.7~0.8t排出されることから、コンクリート業界では製造時のCO₂削減が大きな課題となっています。

本講演ではこの課題解決策として、自己治癒コンクリートの開発によるRC構造物の長寿命化及び生コンへのCO₂固定化について紹介されました。

このうち自己治癒コンクリートは細菌の代謝作用により炭酸カルシウムが生成してひび割れを閉塞させる技術であり、大変興味深い内容でした。

(2)「生コンクリートの技術的課題とこれからの展望」

福井県コンクリート診断士会の石川様から、生コンクリートの技術的課題とこれからの展望と題して講演がありました。

福井県ではコンクリートの劣化要因として、ASR、塩害、凍害が多いとのことであり、この対策としてのフライアッシュセメントの有用性と使用上の注意点について紹介されました。特にフライアッシュコンクリートでは未燃カーボンにより空気連行性が低下しやすいため、空気量の調整のためフライアッシュ用AE剤が有効とのことでした。

一方、同じく混合セメントの一種である高炉セメントについては、以前に比べて初期強度が高くなっていることで断熱温度上昇量が大きくなっており、温度ひび割れに対して有効な対策でなくなっているとのことであり、コンクリート診断士としては最新の技術情報を入手して技術的対応を検討していくことが重要であると力説されました。

最後に、生コン業界が抱える残コン・戻りコンの現状や課題が紹介され、その対応策としてAR技術による必要生コン数量の厳密化や残コンを活用したコンクリートブロック等の紹介がありました。



酒井氏の講演



石川氏の講演

以上